

団塊世代を含む 70 代の約 9 割が「捨てられないモノ」に悩み。

2025 年問題に直面する“親子の終活”に新たな解決策 モノと想いを受け継ぐ「継承 TRUNK」 9/8 スタート！

少子高齢化が進む中、「終活」や「身辺整理」はもはや高齢者だけの問題ではなく、親世代・子世代の双方にとって身近なテーマとなりつつあります。特に 2025 年には、「団塊の世代」と呼ばれる昭和 22 年～昭和 24 年生まれの約 800 万人が 75 歳以上となり、国民の 5 人に 1 人が後期高齢者となる「2025 年問題」が懸念されています。

こうした背景を受け、株式会社キュラーズ（本社：東京都品川区、代表取締役：スティーブ・スポン）は、住宅の狭小化が進む東京都・愛知県・大阪府に在住する「団塊世代を含む 70 代」と「団塊ジュニア世代を含む 50 代」の男女を対象に、「終活・身辺整理」をテーマとした意識調査を実施しました。



また、同社では今回の調査結果を踏まえ、「思い出の品と一度距離を置き、その必要性を見つめ直したうえで、“断捨離をする”“誰かに譲る/次世代に継承する”という新たなライフスタイル」を提案するキャンペーン「継承 TRUNK」を開始します。トランクルームの新たな利活用として、世代を越えた“モノとの向き合い方”を支援していきます。

【調査サマリー】

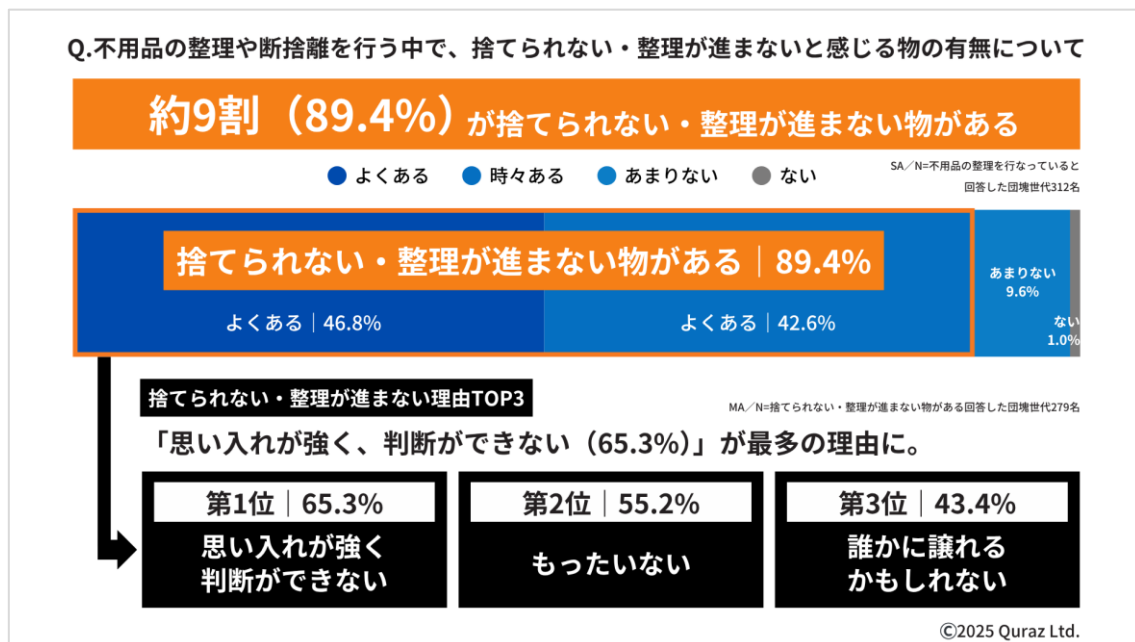
- 「団塊世代を含む 70 代」の約 9 割（89.4%）が、不用品の整理・断捨離の過程で「捨てられない・整理が進まない」ものがあると回答。理由の上位には、「思い出」や“感情”が整理の障壁に。
- 親のモノを整理する団塊ジュニア世代も「捨てることへの葛藤」と「物理的な大変さ」に直面
74.8%が「捨てるには忍びないと感じた物があった」と回答。

- 親の物品整理では「量の多さ」「保管スペース不足」が大きな負担に。
「量が多すぎて物理的に大変だった」（47.5%）、「保管するスペースがなかった」（39.6%）など、物理的な負担に悩む人が多い実態も明らかに。
- 思い出の品と「一時的に距離を置き、物の必要・不必要を見極める」スタイルに、「団塊世代を含む 70 代」では 34.1%、「団塊ジュニア世代を含む 50 代」では 42.0% が共感できると回答。

団塊世代の終活事情：モノが捨てられない「感情の壁」

「終活・身辺整理」をテーマにした本調査では、①「終活または身辺整理に取り組んでいる/意識している」と回答した団塊世代を含む 70 代の男女（440 名）と、②「現在、親の終活や身辺整理を手伝っている/または相談されている」と回答した団塊ジュニア世代を含む 50 代の男女（329 名）の 2 世代に対して調査を実施しました。なお、調査エリアは、住宅の狭小化が進む東京・大阪・名古屋の 3 大都市圏で実施いたしました。

「団塊世代を含む 70 代」の男女に対し、不用品の整理・断捨離の過程で「捨てられない・整理が進まない」と感じる物品があるかを尋ねたところ、約 9 割（89.4%）が「ある」と回答しました。その理由としては、「思い入れが強く、判断ができない」（65.3%）が最多で、次いで「もったいない」（55.2%）、「誰かに譲れるかもしれない」（43.4%）が続きました。終活や身辺整理の中における不用品整理のハードルは、物そのものよりも“思い出”や“感情”に起因する「感情の壁」にあることがうかがえます。



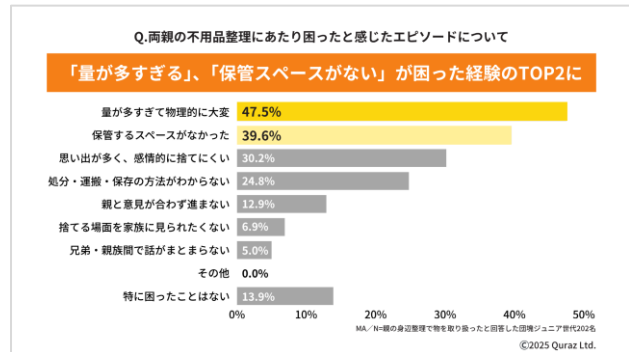
団塊ジュニア世代の“親の終活”サポート事情

次に、「団塊ジュニア世代を含む 50 代」の男女に対し、親の終活・身辺整理を行う過程で扱ったことのある物のジャンルを尋ねたところ、「着物・衣類類」（36.5%）が最多となり、次いで「アルバム・写真・手紙などの思い出品」（33.1%）が上位に挙がりました。

また、取り扱った物に対して「捨てるには忍びない」と感じたことがあるかを尋ねたところ、7 割以上

(74.8%) が「あった」と回答しました。さらに、親の物品整理を進める中で困った経験・エピソードを聞いたところ、「量が多すぎて物理的に大変だった」(47.5%)、「保管するスペースがなかった」(39.6%)が上位に挙がりました。

これらの結果から、親の終活・身近整理のサポートにおいて、「物を捨てる忍びなさ」といった感情的な問題に加え、「処理にかかる労力」や「保管スペース不足」といった物理的な問題も、大きな障壁となっていることが推察されます。



モノと想いをゆっくり見つめ直す「継承 TRUNK」キャンペーン開始

キュラズでは、終活や実家じまいに取り組む方々と、それを支える子世代に向けた新たなキャンペーン「継承 TRUNK」を開始いたします。本キャンペーンは、「思い出の品と一度距離を置き、その必要性を見つめ直した上で、“断捨離をする”“誰かに譲る／次世代に継承する”」というスタイルを提案いたします。調査結果からも分かるように、終活や身近整理においては、モノに宿る思い出や他者の想いが判断を難しくする場合も少なくありません。「継承 TRUNK」では、そうしたモノを一時的にトランクルームで保管し、“本当に必要なモノかどうか”を冷静に見極める時間と空間を提供します。

キュラズでは「終活」や「実家じまい」といったライフステージの節目において、トランクルームの新たな活用方法として「継承 TRUNK」を通じて、感情的・物理的な整理の負担軽減を支援してまいります。

■「継承 TRUNK」概要

- ・対象：終活や実家じまいを目的にトランクルームをご利用希望の方（5名様）
- ・期間：2025年9月8日（月）～12月28日（日）
- ・内容：日割り+6か月分利用料+セキュリティカード代金(2,970円)無料
- ・サイズ：ロッカーサイズ～2畳までのお好きなサイズ
- ・店舗：千歳烏山店、渋谷幡ヶ谷店、駒場東大店
- ・エントリー方法：下記申請フォームまたはお電話（03-5572-6316）よりエントリーください

<https://forms.gle/RsJWdqbZPyaC4Ji16>

- ・備考：メディア取材にご協力頂ける方が対象となります。

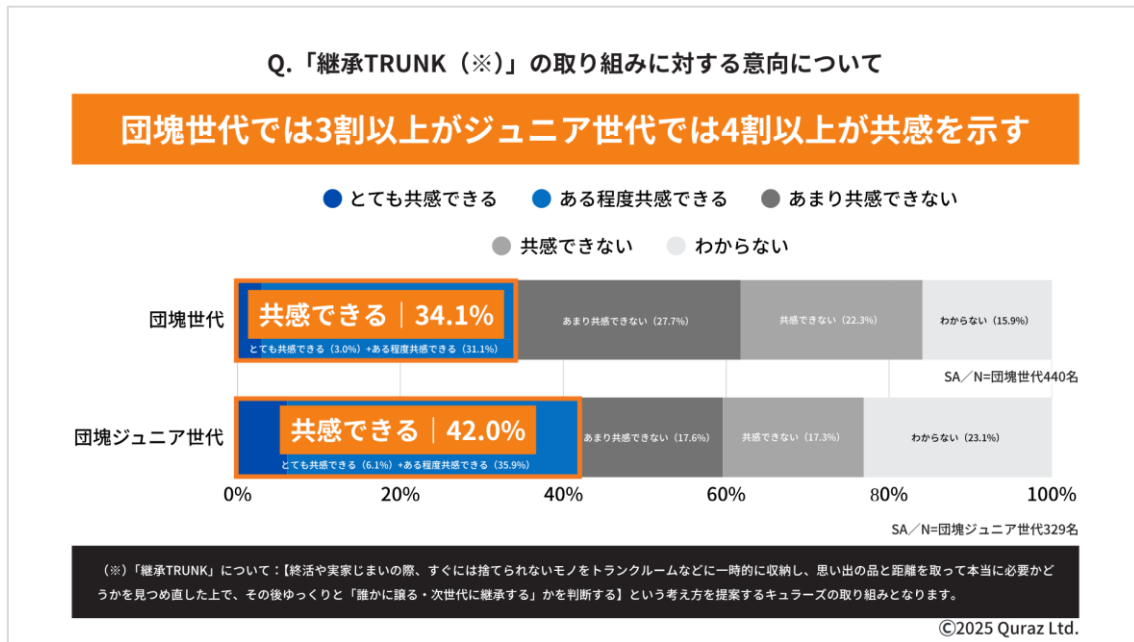
申請いただいた内容は当社所定の基準に基づき審査致します。

審査結果に関するお問合せにはお答えできません。

本キャンペーンは予告なく変更・終了する場合があります。

キャンペーン適用の方には、末尾に記載のPR事務局よりご連絡させていただきます。

本調査の中で、両世代に対し「継承 TRUNK」の取り組みへの意向を問うと、「団塊世代を含む 70 代」では 3 割以上（34.1%）が、「団塊ジュニア世代を含む 50 代」では 4 割以上（42.0%）が「共感できる」と回答しました。



終活アドバイザー 藤岡聖子さんコメント



終活アドバイザー、整理収納アドバイザー 1 級認定講師

藤岡 聖子（ふじおか せいこ）

三井物産で建築資材を担当後、不動産・税理士事務所勤務。2007 年に整理収納アドバイザー資格を取得し、講師・整理収納作業を行う、現在、整理収納アドバイザー1 級認定講師&整理収納アカデミアマスターとして活動。モノ・書類・お金（相続）・人生（終活）に関するセミナーや講演、社員研修など、心地よい空間作りのために、個人・企業での整理収納作業を依頼者目線からサポートしている。

親の終活や身辺整理で一番つらいのは、実は“モノ”そのものではなく、そこに宿る思い出や感情です。写真や手紙、使い込まれた日用品…手放すことは過去との別れのように胸が痛むもの。一方で、保管場所の限界や処理の負担も現実問題として重くのしかかります。そんな時は、一旦“距離を置く”選択があれば、遺品整理も進みます。いつまでも整理ができず放置状態で、近隣に迷惑がかかるということも減るでしょうし、実家の売却・賃貸の返還もスムーズになります。トランクルームで保管することで心に余白が生まれ、本当に必要なものも見えてくるでしょう。キュラーズは屋内型で温湿度管理が徹底されており、管理が難しい絵画や着物なども安心して保管することが出来ます。またスタッフも常駐しているのでご相談もしやすいです。時間をかけて向き合い、「手放す」「譲る」「継承する」を選び取る。それは、モノの整理を超えて、心と暮らしを未来へつなぐ大切な一歩となるでしょう。

【調査概要】

※本調査結果をご利用の場合は、「キュラーズ調べ」のクレジット表記をお願いいたします。

・調査対象：

- ①「終活または身辺整理に取り組んでいる/意識している」と回答した 70 代の男女（440 名）
- ②「現在、親の終活や身辺整理を手伝っている/または相談されている」と回答した 50 代の男女（329 名）

・調査エリア：東京・大阪・名古屋の 3 大都市圏

・調査期間：2025 年 7 月 14 日（月）～7 月 16 日（水）

・調査方法：インターネット調査

■キュラーズについて

キュラーズは、全国 70 店舗、41,000 室を展開する日本最大級のトランクルームです。質の高いトランクルームサービスやお客様本位の取り組みが認められ、様々な調査においてキュラーズが提供するサービスを評価いただき、2001 年の創業以来のべ 18 万人以上のお客様にご利用頂いております。高まる収納ニーズを背景に、都心部を中心とした高品質トランクルームの出店を強化しています。

キュラーズ HP：<https://www.quraz.com/>

・株式会社キュラーズ 代表取締役 スティーブ・スポン



2009 年に来日し、屋内型トランクルーム最大手である株式会社キュラーズの代表取締役に就任。急成長を遂げたトランクルーム市場において、先進的な運営手法で注目を集め、新聞・テレビ等の各種メディアに多数出演。また、米国セルフストレージ団体主催の Expo にて講演を行うなど世界的なトランクルームサービスの普及・促進へ向け精力的に活動を行っている。

■会社概要

名称	：株式会社キュラーズ
本社所在地	：〒141-0032 東京都品川区大崎 3-5-2
連絡先	：Tel: 03-4563-1500
代表取締役	：スティーブ・スポン
従業員数	：203 名（2025 年 1 月現在）
創業	：2001 年 8 月 2 日